


 医師


内視鏡検査の現状と受診方法について

第三消化器内科部長 宿輪 和孝

この度、平成29年4月に第三消化器内科部長を拝命致しました宿輪和孝と申します。

私は平成12年に産業医科大学を卒業し、平成14年から平成16年にかけて中部ろうさい病院で消化器内科医として指導を受けた後、他病院での勤務を経て平成25年から二度目の赴任でこの病院に戻ってまいりました。

以前と比べ、内視鏡検査数がかなり増加しており(平成28年度実績:上部消化管内視鏡3,932件、下部消化管内視鏡1,737件、内視鏡的逆行性胆管膵管造影187件)、消化器系の疾患で受診される患者さんが増えていると実感しています。

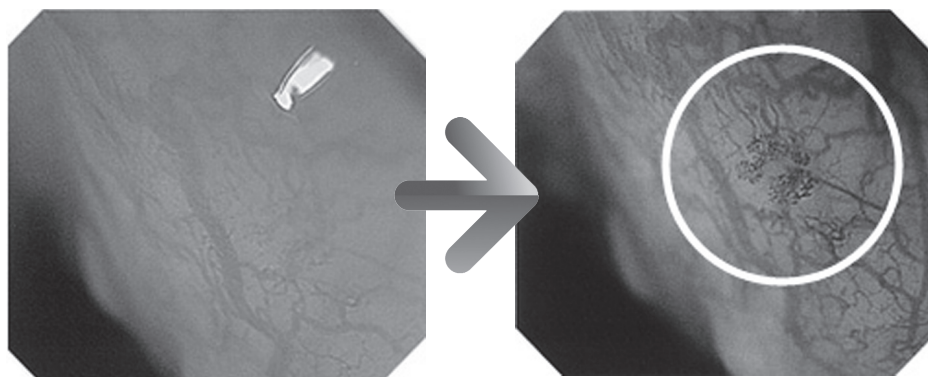
「胸やけ」、「みぞおちの痛み」、「嘔吐」などの症状があった場合、当日朝食を取らずに外来を受診していただければ、予約しなくてもその日のうちに上部内視鏡検査(いわゆる胃カメラ)は可能です(当日の検査状況にもよります)。

また、「便秘」や「血便」、あるいは健診で便潜血陽性を指摘された際に下部内視鏡検査

(大腸ファイバー)を受けていただく場合は、事前に検査の予約が必要となります。予約を取るには、直接当院を受診していただいてもかまいませんが、かかりつけ医がいらっしゃる方は、かかりつけ医から当院の地域医療連携室を通じて検査予約をしていただければ、前処置薬の下剤を当院から手配させていただきますので、検査の希望がありましたら御検討ください。

増え続ける消化器の癌に対して、小さな病変を早期に発見し治療することの重要性が高まる中、内視鏡検査に関しては、従来の光では観察しにくかった小さな病変をより観察しやすくするための技術が進歩しています。「光デジタルによる画像強調」を用いた狭帯域光観察(NBI=Narrow Band Imaging)を行うことで早期癌の発見が可能となっており、当院でも積極的に取り入れております。

地域の皆さんが健康な日常生活を送れるよう手助けできればと考え、日々診療にあたっておりますので、これからもよろしくお願いたします。



食道の通常光観察画像

狭帯域光観察画像